

令和5年度 音楽科 授業改善プラン

文京区立駕籠町小学校

	児童の実態及び課題	○中心となる単元、 ◆カリキュラムデザイン	授業改善に向けての具体的な手立て	◎成果 ●課題
知識・技能	<p>&lt;2年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>拍のまとまりやリズムと曲想との関わりに気付くことはできるが、まとまりを感じながらリズムに乗って活動することが難しい児童がいる。</li> </ul> <p>&lt;3年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リコーダーの運指はスムーズに行えるが、音色やタンギングに気を付ける児童が少ない。</li> </ul>	<p>○はくをかんじながらうたいましょう。</p> <p>◆はくをかんじながらがっきをえんそうしましょう。</p> <p>○リコーダーのえんそうのしかたをおぼえましょう。</p>	<p><b>導入の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>手、足、体を使ったリズム遊びを取り入れたり、グループで歌いながらいろいろな拍子のリズムを感じ取らせたりする活動をする。</li> </ul> <p><b>いろいろな音色の聴取</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ピタゴラスイッチなどなじみのある曲から名曲までいろいろな曲を聴取し、リコーダーの美しい音色に親しませる。また、音の高さによって口の中の発音の仕方を工夫させる。</li> </ul>	<p>◎わらべうたなどで身体表現を取り入れた音楽活動を行ったが、リズムに乗って協力して楽しそうに活動することができた。</p> <p>●リコーダーの心地よい音色の出し方やタンギングのポイントを掴ませることができなかった。</p>
思考力・判断力・表現力等	<p>&lt;6年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>旋律、強弱、音の重なり、フレーズを感じ取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを分析することはできるが、どのように歌うかについて思いや意図を持って曲の特徴にふさわしい表現を工夫する児童が少ない。</li> </ul>	<p>○曲想を生かして表情豊かに歌いましょう。</p>	<p><b>発声指導の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発声時に響きを体で感じさせたり、2部や3部の簡単な音の重なりを感じさせたりする活動を行う。</li> </ul> <p><b>曲の分析の共有</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>曲の特徴を個々で分析した後、グループで意見を出し合い、いろいろな考えを共有したり、それを表現して確かめたりする活動を行う。</li> </ul>	<p>◎2部合唱をお互い聴き合ったり発表をしたりして、音の重なりや、フレーズ感を捉えさせることができた。</p> <p>●曲の特徴を分析して、作曲家や作詞者の思いを表現することが難しかった。</p>
学びに向かう力・人間性等	<p>&lt;4年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の担当する旋律は意欲的に練習をするが、他の旋律の特徴を感じ取りながら演奏することが難しい児童がいる。</li> </ul> <p>&lt;5年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運指や強弱記号に気を付けて忠実に学習することはできるが、互いの音を聴きながら演奏を高め合う活動が苦手な児童がいる。</li> </ul>	<p>○リコーダーと合わせて、明るい声で歌いましょう。</p> <p>○リコーダーの音が重なり合うひびきを感じ取りながら演奏しましょう。</p>	<p><b>学習環境の工夫（4，5年生）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>互いの旋律を聴いて、ペアや数人のグループで意見を交流し合う場を設定し、お互いの良さを認めあう活動の場を設定する。</li> <li>オクリンクなどの録画機能を使い、自分の音を確認したり友達と比べたりして、音の分析をしたり友達とコミュニケーションをとったりしながら演奏を高めていく活動を取り入れる。</li> </ul>	<p>◎楽器の演奏では、練習動画を見て家で練習をしたり友だちと音を合わせて練習をしたりと、工夫をして練習をしていた。</p> <p>●他の楽器の音と自分の楽器の音を溶けかませて演奏することが難しかった。他の楽器の音をよく聴いてバランスをとったりアドバイスをしたりする時間を設ける必要があると感じた。</p>